

テーマ：「武道を通しての国際交流」

2008.5.11

21 世紀ボーダレスの時代に国際交流協会は、必要か？

世界に武道は、普及したが日本人指導者は、世界から「締め出されている」

「コピー剣道」「コピーカラテ」の出現の危機！



講師：大橋千秋

明治の初め和歌山県大島でトルコの船が遭難し 600 名が海に投げ出された。そのとき、大島の貧しい漁民達は、自らの危険もかえりみず 69 名を助け出して非常用の食料を全て与えました。また、そのことを聞いた明治天皇は、ご褒美を島民に与えましたが戴いたお金も帰国のためにとトルコの人に与えました。トルコの教科書には、日本人は、庶民にいたるまで「武士道」が浸透していると書かれています。時代は、現代になり、95 年後のイラン・イラク戦争が始まり制空権をイラクに奪われ日本人 300 名が日本政府の救済も困難となり窮地に追いやられたときに二機のジェット旅客機が救出に駆けつけてくれました。トルコのジェット旅客機でした。制空権を脱したとき機内放送で「私達は、95 年前に大島で日本人に受けた恩義を決して忘れていない」と放送され機内は、どよめきました。私が述べたいのは、**雄踏の国際交流**のみなさんの活動は、政治家や一部の心が卑しいものが唱える「共通の利益のための友好」などと異なり、純粹で崇高な「心（信頼・正義）」の交流であり、この大島で島民が行ったことと同じ活動であると思います。この活動が、将来、必ずや日本国を救うと確信します。

さて、国際的な武道界においては、日本を「締め出す」動きにあります。世界空手道連盟は、「道」をはずし世界空手連盟になりました。会長は、ヨーロッパから選出されているようです。この状況は、お互いの文化の違いもありますが「日本自体の愚考＝流派の分裂と愚かな指導者」につきる事であります。競技の「技術、強さ」以上に「信・義・忠」といった精神性を求める世界各国のニーズに対しそれに答えられない脆弱な日本人指導者が原因で「締め出し」と言う現象が起きていると推測します。このことに日本国内の「カラテ指導者」は、視野が狭く気が付かないため更に日本の空手界を迷路に陥れているのでしょう。**国際柔道連盟 (IJF)** においては、ブラジル・リオデジャネイロで開かれた IJF 定期総会で再選を目指していた理事である山下泰裕先生が、アルジェリアのモハメド・メリジャ候補に 61 対 123 の大差で敗れました。IJF は今後、欧州中心の権力構図に急速に再編成されるものと見られます。山下泰裕氏のような立派な人材が選任されなかったことは、私と

しては、世界の武道界の損失と考えます。しかし、ここでも「日本柔道の指導者の原因と問題」が挙げられる。急速なスポーツ化、オリンピック競技への参入の結果などが原因という事は、さておいて、**指導者思考の西洋化**が挙げられます。「武士道の訓えすら知らない日本人指導者」は、なんら、外国の「指導者と違いがない」わけです。したがって外国でのコーチ「解任」と言う事態につながっていきました。このような事により正しい武道認識が欠如していったと考えられます。しかし、いまでも真の指導者が望まれていることに変わりありません。さて、国際的に見た剣道界ですが柔道や空手のように世界の競技人口は、多くありませんが 2005 年 4 月、IKF(Internatinal Kendo Federation / 国際剣道連盟) はベルリンで開催された G A I S F (General Association Of International Sports Federations / 国際スポーツ連盟連合) の総会において、加盟申請のためのプレゼンテーションを行ないました。しかし、直後に行なわれた投票で加盟申請は否認されました。世界のスポーツ界を統括している組織は、国際オリンピック委員会 (IOC)、国際スポーツ連盟連合 (GAISF、約 100 の IF から構成)、オリンピック夏季大会競技団体連合 (ASOIF、約 30 の IF から構成)、オリンピック冬季大会競技団体連合 (AIWOF、7 の IF から構成)、IOC 承認国際競技団体連合 (ARISF、約 30 の IF から構成) があります。もし仮に「コピーの剣道」が出現しこれらの団体に承認された場合は、日本剣道自体が「コピー」となる可能性があるわけです。「**コピーカラテ**」や「**コピー剣道**」が溢れるなど信じがたいことです。しかし、このような事態を起こす原因は、**日本側の指導者の問題**であることは、明解であります。

さて、ここで世界の人々が、日本に求めていることは、異なっているのか？という課題に触れたいと思います。日本の支援で学校、病院、道路、橋などを建設することは、十分に感謝されていますがヨーロッパもアジア、アフリカなど隔たりなく求められているのは、**武道 = 武士道を媒介とした教育**であることに気がきました。ネパールで第 1 回大橋杯国際拳法選手権が開催されましたが私達に求められたのは、「**強さ**」「**技術**」以上に如何にネパールの人々が世界から信頼され勤勉で正義を愛する国民と認知されることでありました。「タクシーに乗ってボラレル事を心配するような国の人と共同で仕事をしようとは、思わない。」と思うのは、当たり前のことです。日本には、「**滅私奉公**」という言葉があります。「私的なことは、後にして忠義を尽くし働く」と言うことです。「**私的な事に走ることを恥**として、恥は、命より重いものである。」とされていました。正直・勤勉や滅私奉公を身をもって教えてもらいたいと考えています。私達が、いち市民とし国際交流協会や拳法会を通し活動することは、トルコの事例を挙げたように将来は、日本国を救うことと確信します。ありがとうございました。

以上